



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：イラク駐留米軍に拘束された外交官との接見ほか (7月8日付現地各紙)

7月7日、ゴミー駐イラク・イラン大使はバグダード近郊の米軍収容所で、今年1月にイラクのエルビルで駐留米軍に拘束されたイラン人外交官5名と計5時間に亘り接見した。

1. ゴミー大使の発言(8日付現地各紙)

- (1) 今回の接見は、イラク政府の尽力及び同政府と駐留米軍との調整により実現し、各外交官と各々計5時間に亘り行われた。同収容所には彼等より以前に拘束されたイラン政府職員2人も収監されている。我々の次の計画は家族との面会の調整であり、本件につき暫定的合意がなされており、その期日の調整が必要である。
- (2) これまでも表明してきた通り、イラン人外交官の拘束は誤った措置であり、国際法規に違反するものである。イランはイラク政府を通じて抗議しつつ、外交官5名及び政府職員2名の解放を追求している。
- (3) 接見の実現は、イラン人外交官解放に向けた前向きな一歩である。本日(7日)のジバリー・イラク外相との会談で、同外相は、自身が訪米した際の米国関係者のイラン人外交官解放に関する発言は前向きであったと述べた。我々も一刻も早い解放を願う。

2. ホセイニ外務報道官の発言(8日、定例記者会見にて。同日付ISNA)

- (1) (拘束中の外交官との接見について)5名の外交官は、拘束及び拘束後の対応について不服であるとして国際法規及び国際条約に違反して拘束され続けていることに不満を述べると共に、一国も早く解放され、家族と会うことを希望した。更に彼等は、これまで提起された言い掛かりは根拠を欠く真っ赤な嘘であると確信していると述べつつ、今回の措置につきイラク政府関係者に謝意を表明した。我々も又、イラク政府関係者及び赤十字の努力に感謝すると共に、彼等の完全な解放の為に、更に真剣且つ幅広い努力を要請する。今回の措置は、6ヶ月の後に、遅延と妨害工作にも拘らず実現したものである。
- (2) (イラク問題に関するイラン・米国第2回協議について)イラク政府関係者は、第2回協議への出席を要請してきている。イランは、米国の立場が明らかとなった後、本件の検討を行う。米国は未だ立場を明確にせず、米国のアプローチからは、自らの行いに如何なる見直し・変更も行っていないことが明らかである。
- (3) (対イラン軍事攻撃を排除しないとのライス米務長官の発言について)ライス米務長官の立場は、米国がこれまでイランに対し追求してきた敵対的立場であり、新しいことではない。